



吉田 いくよ

「山の売買」あまり縁のある方はいらっしゃらないだろうが、私の実家は木材業を営んでいたのだ、私の名前の山がいくつかある。元国有林だった五十五年生の間伐を一年近く行っていたのだが、その間伐材が十二月に売れた。忘れたころにやってきたその知らせ、母が亡くなった直後でもあったので、なんだか両親からお小遣いをもらった気持ちになったものだ。

全国的に見て木材の売買はどのような動きがあるのか。かつてかなりの高値で取引された木材。時代・生活様式の変化でしばらく低迷の時代を過ごした。しかし木材の世界価格は過去の異常高騰ほどではないが歴史的に見ても今も高い水準にあるようだ。需要と供給のバランスで地域ごとに結構違いがあるようだ。私の山は四十檜五年前に行った間伐時より価格も三倍といったところ。やはり、ある程度高値で取引されている。これまでの山の価値は「木材・炭・土地」でしたが、これからの山の価値は「データ」とされる場所になるということ。例えば、気温・温度・降雨・土壌・水量・CO2吸収率、これをAで常時モニタリングする。山は毎日データを生む資産という見方だ。

Aで「見えない山」が可視化され売買もしやすくなるなど、山の価値観が変わってくるのではないだろうか。山を「炭素を生む工場」として評価していく時代になってほしいものだ。私は山の税金を払うとき、これは酸素代だと思って支払っている。これから山の価値は高まっていくだろうし、価値観も変わっていくように思う。人間が生きていくなかで大きな役割を担っている物言わぬ「山」の存在を改めて意識したいと思う。

## 今年の年間テーマは：駆ける

馬編の漢字（駆・駒・駐・駿・驚・騷・馳・憑・駅・騎）をテーマにお届けします。



## 今月は【駆】

荒川 幸子

今年新調したものだ。それは御朱印帳です。ずっと御朱印集めに興味があり、頃合いを見て始めたいと思っていました。まさに、思い立ったが吉日。今年、午年であることから、馬にゆかりのある神社から巡ってみよう！と心躍らせています。昨年まで家族の闘病など、困難に直面し、目の前のことで頭が一杯だった私にとって、午年である今年は、人生の転機となりそうです。今年に入り「何事も馬（うま）くいく」「前進あるのみ」：そんな前向きな言葉がすんなりと心に入ってくるようになりました。神社で神様に「助けて下さい」と頼るのではなく、日頃の感謝を伝えられるよう、心豊かに、日々を過ごしたいものです。

十二支の中で、午（うま）は勢い・成功・飛躍を象徴する動物で、午年は物事が一気に進みやすい特別な年とされています。相馬市にある「相馬中村神社」は、古くから相馬市の守り神として崇敬されてきた、馬の聖地として有名です。本殿は寛永二十年に建立され、国の重要文化財に指定されています。特徴的なのは臺股（かえるまた）に施された馬の彫刻で、馬が神の使いとして祀られていることを示しています。国の重要無形民俗文化財である「相馬野馬追」の出陣式の舞台でもあり、甲冑競馬や神旗争奪戦など、勇壮な行事の中心を担っています。そして、全国でも珍しい「競馬勝守」を買えるのが「福島権荷神社」。このお守りを買えば勝負ごとの運氣が上がりそうです。今月のテーマは「駆」。「駆ける」は「走る」よりも強い緊急性や目的を持った走りを表し、「馬を走らせる」という由来から、スピード感や行動力といった良い意味と、追い立てる・追い払うといった悪い意味（ネガティブな意味）の両面を持っています。私はプラス思考で、駆け出す勇氣と駆け抜ける努力を怠らず、自分の歩幅で一步を踏み出したい！と思っています。意志を持って駆ける先に、見える景色を信じて。

吉田 絵里奈

まさに今、駆けています！  
二月十一日に、私も所属している郡山商工会議所青年部 創立四十周年記念講演・式典・祝賀会が開催されます。この四十周年式典は「これまでの感謝とこれからの決意表明」という思いが込められています。会員全員で心合わせを行い、今準備に駆けているところです。

早いもので、二〇二六年を迎えてもう一カ月が過ぎようとしています。二〇二五年十一月に、母方の祖母が旅立ちました。一〇一歳でした。祖母は長野県出身で、祖父と材木屋を営むために高知県に移住し、母は高知県で育ちました。いつも着物を着て、材木屋の従業員達の面倒を見ていたと聞いています。祖父が亡くなったからは高知県で一人暮らししていましたが、病気をしたことをきっかけに、二〇一〇年に郡山に越してきました。

郡山に来てからは私も同居しておりました。私から見た祖母は、「知的な女学生」のようでした。本が大好きで、家で過ごした一〇〇歳まで毎日、新聞を隅から隅まで欠かさず読んでいました。デイスサービスで漢字の問題が出ると、一番に答えたり、分からなかった問題はちゃんとメモをして持ちかえり私や母に聞いて、しつかり復習をしていました。一〇〇歳でも新しい知識を取り込もうとする自慢の祖母でした。

四歳になる娘は祖母のことを、『ひあちゃん』と呼んでいました。ひいばあちゃんが言えなくて、ひあちゃんです。今でも「ひあちゃんに会いたくなっちゃったね」という娘。大きくなっても『ひあちゃん』のことを覚えていてくれたら嬉しいなと思います。

年が明けて一月二日、家族で書初めをしよう！と久しぶりに書道道具を開きました。中には何年か前に祖母が書いた、書初めが残っていました。『晴天なり』。今年は家族全員でその文字を書きました。

このおはなし職人の原稿を毎月、祖母は楽しみに愛読しておりました。私の文を読むいつも感想を聞かせてくれました。感想は聞けなくなってしまうけれど読んでいてくれることを願って。いつもそばで見守ってくれていることを感じながら、祖母のように人生を駆け抜けていきたいと思ひます。

富本 理子

私は小さい頃から駆けつことが好きで、中学高校時代は陸上部に所属していました。得意種目は百メートル、二〇〇メートル、四×一〇〇メートルリレーです。活動六年の間、毎年東北大会に出場することを目標として、日々練習を積み重ねていました。顧問の先生の御指導、一緒に練習する仲間たちの力に助けをもらい、目標通り毎年何らかの大会・種目で福島県代表として東北大会に出場することができました。これは今でも私のちよとしたプチ自慢となっています。

それからずっと走ることが好きです。マラソンのように『ゆつくり・自分のペースで・長く走る』のではなく、一〇〇メートルを全力疾走するような走り方が好きです。『腕を大きく振って・腿を高く上げ・ストライドを広く走る』そんな走り方です。ストレスがたまった時、嫌なことがあった時や悲しいことがあった時には競技場まで出向き、もちろん現役の時のように速くは走れませんがそんな走り方で一〇〇メートルを全力疾走すると、類に感じる風が心地よく気分が爽快になっていくことが自覚できます。

高校時代、毎日放課後は開成山陸上競技場で練習をしていました。青春の思い出がたくさんたくさん詰まった場所です。そしてその時青春を共にした先輩後輩同期とは、今も年に一度アメリカに住んでいるメンバーが帰国したタイミングで集まっています。大切に大好きな仲間たちです。みんなそれぞれの場所、立ち位置で頑張っている姿を知ることができるといことは、とても励みになります。

人生も折り返し地点を過ぎ終盤にさしかかってきました。それでも青春を謳歌したあの頃のように、今年も楽しく元気に一生懸命毎日を駆け抜けていきたいです。

## 【編集後記】

おはなし職人編集を担当いたします富本理子と国井明美です。よろしくお願ひいたします。今年の年間テーマは「駆ける」。目標に向かって各々勢い良く駆け抜ける一年にしていきたいと思ひます。寒い日が続きますので、ご自愛くださいませ。